

高温耐性が優れ、白未熟粒の発生が少ない 有望系統「関高 IL1 号」の特性

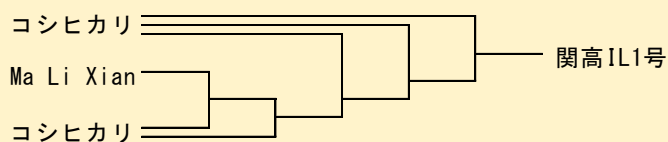


図 関高IL1号の系譜

注) 関高の関は作物研究所の系統を、高は高知県の系統を示す

表 関高IL1号と‘コシヒカリ’との特性比較

系統名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏 程度	玄米重	同左 比率	玄米の特性比較							
									千粒重	外観品質	白未熟粒	乳白粒	基白粒	背白粒	腹白粒	心白粒
品種名	(月/日)	(月/日)	(cm)	(cm)	(本/㎡)	(0-5)	(kg/10a)	(%)	(g)	(0-9)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
関高1L1号	7/3	8/6	72	16.7	459	0.5	516	88	21.2	3.0	14.8	0.0	7.8	3.3	3.3	0.5
コシヒカリ	7/5	8/7	84	18.4	571	2.8	589	100	21.8	3.5	30.0	1.5	15.3	9.8	3.5	0.0

注) 1) 数値は平成25年と同26年の平均値。2) 施肥量は、成分で3要素とも0.75kg/aとし、移植は平成25年は4月9日、平成26年は4月10日に行った。3) 倒伏程度は達観により0(無)～5(全倒伏)で判定。4) 玄米重および千粒重は、粒厚1.8mm以上の精玄米を用いた水分15.0%換算値。5) 外観品質は、1～3は1等、4～6は2等、7～8は3等、9は規格外(元高知地域センター検査官による)。6) 白未熟粒は、目視により評価した乳白粒～心白粒の合計。

高知県の早期栽培では、登熟期が高温となることから白未熟粒の発生が多く、品質低下が著しい‘コシヒカリ’に代わる高温耐性の優れる品種育成が求められています。

そこで、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所と共同で、高温耐性の優れる系統の選抜が短期間で行えるDNAマーカー技術を用い、高温耐性遺伝子以外はほぼ‘コシヒカリ’と同じ同質遺伝子系統の選抜を行ってきました。その中で、有望な和髙IL4が、地方系統番号の関高IL1号を付与されましたので、その特性を紹介します。

関高IL1号の稚苗を4月9日～10日に移植した場合、出穂期、成熟期ともに‘コシヒ

カリ’と同じでした。一方、稈長および穂長はやや短く、穂数はやや少なく、収量はやや劣りました。千粒重はほぼ同じですが、白未熟粒の発生は5割程度少なく、高温耐性が優れている系統でした(表)。また、食味試験でも、‘コシヒカリ’並みの評価でした。

以上より、関高IL1号は高温耐性が優れ、有望であることが分かりましたので、今後は短稈や低収要因の解明とともに、地域適応性(現地試験による収量性、外観形質、食味関連形質など)を評価していく予定です。

(水田作物担当 溝渕正晃 088-863-4916)